発行月：平成 25年 12月　家族新聞　第 312号

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 髙橋賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
（渋川福祉センター内）
TEL 0561-51-2878

こんなことが出来る収穫祭で本当にすばらしいではありませんか。毎年行ないます。

新米収穫まつりと食育料理教室。

日時　平成25年12月13日㈮
午前9時30分で午後1時30分
場所　尾張旭市学校給食センター
主催　地域環境活性化協議会
指導　尾張旭市健康づくり食生活改善協議会

田んぼでとれたお米をみんなで食べようと企画した。田植をした中部保育園年長組と通信教育の高校生と先生を含めて55名が学校給食センターでカレーライスと5色ピクルス・ミルクゼリー＆フルーツをみんなで食べました。子供達も完全の子がほとんどで、指導者もほっとしていた。

子供達は料理づくりに入る前に指導者から、つくる人達の心を思って大切にごはんをいただく

体験の風をおこそう

おねえさんに切り方を教えてもらってうれしいね!!

話と絵を見ながら「いただきます」「ごちそうさま」の意味を真剣に聞いてた。

▲私の大好きなミルクゼリーだ!!早く出来てよ!!

高校生も保育園の子供達の料理に一生懸命、手助けして楽しみながらニンジン、ジャガイモを切っていた。

こんなことは学校では教えません。今こんな形でお互いに楽しく料理教室を開催することはありません。なんと幸なことですか。「まちづくり」にはこのことが大切なのです。

▶「一緒に作ったお米とカレーの味は、高校生は「自分達で田植をしたお米でこんなにおいしく食べられるのは幸です。」